

さわやか通信



「手術室フォトギャラリーへ ようこそ！」

新棟も急ピッチで工事が進行し、30年以上に亘り使用してきた手術室も老朽化が目立ってきています。その様な中、手術部でも **患者さんの歩行入室、親子同伴入室、手洗い水の水道水使用、揉み洗いと速乾性アルコール消毒薬の励行、スリッパの履き替え1回化**（1足制導入を目指しています）と小さな改革を進めてきました。さらに手術オーダリングの導入という大きな山場も今まさに迎えようとしております。

患者さんが歩いて入って来るあるいは、親子で手をつないで入室して来る廊下が雑然としていたのをまず整理整頓しました。その分、がらんとして寂しい感じが否めませんでした。

そこで、私の友人で写真撮影が趣味の人たちに頼んで、**風景や花などの写真を寄付してもらい壁面に飾るようにしました。**写真で見て頂くとわかるようにあまり大きくはないのですが、手術室の患者入室廊下と職員通路に数多く飾ってあります。一人は、私の故郷の

新潟の同級生で佐渡汽船に勤めており、海や佐渡の風景写真を送ってくれました。一人は静岡市内で開業している友人で、富士山を中心とした写真が多く寄せられました。もう一人は静岡の病院で一緒に働いていた同僚で、自然の景色とりわけ、四季折々の花の写真を撮るのが好きなようです。三者三様個性豊かな写真がそろっております。季節に合わせて写真の入れ替えを行うことが、私の秘かな楽しみになりました。あまり、注目はされていないのですが、**写真が変わると目撃しつけて、嬉しそうに報告してくれる職員も結構いて、ちょっぴり嬉しくて一日が幸福に過ごせるものです。**中には、どうしても欲しいという人がいて差し上げたりもしています。

職員の皆様であれば、どなたでも見に来ることができます。患者さんの送り迎えや手術室に御用がある際には、**手術室フォトギャラリーを是非鑑賞**してください。感想のみならず、自分の写真を飾ってほしい方も大歓迎です。手術室へようこそ！（手術部長 白石 義人）

～不思議な初孫～

我が家の初孫は外孫である。今4歳、保育園に行っている。男の子だ。孫をほめるのもなんだが、たれ目でいい顔をしている。今は亡き友が、生まれて間もない頃の彼を見ていい顔をしているなどと言っていた。外孫だが近いところに住んでいるので毎日やってくる。おそらく、**母親も含めて僕が一番たくさん彼を抱いてやったと思う。**まだ、彼が歩けない頃、日光浴のために仕事に行く前の朝、毎日彼を抱いて近くを散歩していた。その途中にほそばに似た木があって、ある日その葉をさわらせてたらニコニコしてしばらく触っていた。次の日から、毎日そこを通ると必ず手を伸ばしてその葉に触りたいと要求するようになった。

2歳の頃、公園に行ったとき、哲学者のような顔をして縁石に腰掛けて頬ずえをついていた。そして、僕と一緒に横に座れと言うのである。どちらが大人でどちらが子供かわかりません。あのとき、彼は何を考えていたのかと思う。今でも不思議な感じがしています。これも2歳の頃だと思うが、あるとき、彼と散歩をしていたら、庭に大きな犬がいました。庭は柵で囲ってあって、柵のところまで大きな犬がやってきました。彼もその柵のところに行きました。しゃがんで柵の間から手を入れて大きな犬の顔を触っています。いつ噛みつかれても不思議ではありませんが、なんとなく大丈夫という感じがしていたので、そのまま、ほっておきました。10分ほどたっただけで行こうとすると、まだ、居たいのかひどく怒ります。2、3回そんなことを繰り返しましたが、最後はつきあってもいられないので抱いて帰ってきました。

彼は車のおもちゃが好きです。ほとんどの男の子は車のおもちゃが好きだと思いますが、彼には小さいときから車の好みがあって、スポーツカーが好きなのです。まだ小さくて、スポーツカーがどういったものか全く分かっていないのに、おもちゃ屋さんで選ぶのは必ずスポーツカーです。**彼の頭の中には何らかの選択の基準があるんだと思います。不思議な孫ですが、大人になっても不思議を持ち続けて欲しいと思っています。**

（臨床研修係長 瑞岳 厚志）



診療録管理委員会の取り組み



フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』によれば、診療録(独Karte:カルテ、英medical record)とは、医療に関してその診療経過等を記録したものです。また全体的な概念として診療情報、または医療情報とも言われます。従来は紙媒体で記録されたわけですが、近年では電子カルテ化が進んでいます。日本で一般に「カルテ」といいますが、明治時代の日本が主にドイツから医学を学んだことの影響です。

医師法第24条1項に、医師は患者を診療したら遅滞なく「経過を記録すること」が義務づけられています。そして記録したものが「診療録」となります。また、2項で記録後最低5年間は保存することが義務づけられています。

というわけで、4月から診療録管理委員会委員長として、なれぬ仕事をやっております。診療録いわゆるカルテですが、膨大な情報を含んでいます。また、その他診療に関する諸記録、たとえば、検査結果、手術所見、レントゲン写真、看護記録なども付随しています。診療に、5年以上こられていない患者さんのカルテは廃棄処分にしてもいいのですが、これをスキャンしてPDFファイル化しコンピューターに取り込みつつあります。一口にスキャンと言っても、カルテの破れたところを修理し、貼ってある検査データはきれいにしわを伸ばして台紙に



貼り、と細かい作業がひかえています。勿論、専門の業者がやるわけですが、時間と手間がかかる作業です。かなりの部分が取り込めたのですが、まだ残っているものも多く、道遠しと言う感があります。将来的には電子カルテになるのですが、今は過渡期ということで、紙媒体のカルテが使用されているわけですから、毎年新たに取り込むカルテもできます。これらのカルテの保管場所も大きな問題です。個人情報ですから、盗まれるということはないにしても、**セキュリティをしっかりと確保できるところに保管することが必要です。**電子カルテになれば、このような場所も必要なくなるのですが、電子化すればまた別の意味でのセキュリティが要求されます。

診療録は単なるメモにとどまらず医療訴訟においても証拠としての重要性は非常に大きく、**たとえ必要な処置を行っていたとしてもカルテに記載がない場合、行ったとの主張は認められない可能性もあります。**ですから、患者さんに対して行ったすべての医療行為を記載することが必要となります。また、重要なことは丁寧できれいな字で要領よく記載しなければなりません(最も、私自身の記載したカルテはあまりほめられたものではありませんが)。**今後はカルテの抜き打ちチェックを行い、正しいカルテ記載法を皆さんに勉強してもらおうと思っています。**(診療録管理委員会 委員長 瀧川 雅浩)

「カーネル・ハンダース」

タイトルを見て、カーネル・サンダースの間違えではないのか?と、思われた方が多いと思います。しかし、正確には「**カーネル・半ダース(半田ース)**」になるのかもしれませんが、ケンタッキーフライドチキンの味の秘密、秘伝のスパイス11種を見つけ出すという私的プロジェクトの完成度が94%になった頃から、試作チキンを何人かに試食してもらっていました。その折に、「完成すれば町名を文字って『カーネル・半ダース』の誕生ですね」と言われたことがあります。

最初は、スパイスを見つけることぐらいは、簡単だろうと考えていました。しかし、意外と苦戦しました。ガスクロ質量分析装置などを利用して解明しようかと思いましたが、コストが高いことや油で揚げているために、スパイスも変化していると思いきらめました。そこでひらめいたのは、私の専門分野であった東洋医学の知識です。スパイスも漢方薬も基本は薬草ではないか、ということです。そこで**ジャスコの食品売り場に置いてある「S&B食品」のスパイスを全種類(40種ほど)買いました。**その時に、レジのおバサン(お姉

さん?)に「たくさん買われるんですね」と言われたので「どれを買っていいのか分からないのです」と返事をすると、おバサンから笑顔が消えました。とても印象的でした。

味や香りなどを手がかりに14種まで絞り込みました。これと同時に揚げ油やフラワーの処方も考えなくてはなりません。何度か繰り返すうちに、**冷めても美味しいチキン、ビールに合うチキン、朝食用や夕食用など、多くのバリエーションを見つけ出しました。**家で作るほうが美味しいことや安いことなどで、一昨年のクリスマス以降、元祖ケンタッキースライドチキンを買うこと無くなりました。ご興味ある方は、スパイスをお教えします。

さて、**残る課題は6%の克服**です。それは、日本で安全上、家庭用加圧調理機の利用は、水に限定されています。そのイケナイ世界に踏み込んで、油での加圧フライの試みです。

(医療情報部/材料部 准教授 谷 重喜)

